

めだかの学校だより

平成 21 年 11 月 1 日
第 66 号
学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第六十六回 校長 鈴木 武史

「めだか」と「かだやし」

「はい、今から私語、飲食一切禁止！」
パラめだかの大声が学舎に響き渡る(笑)
「それでは次回めだかの学校の三役を発表します。まず校長先生は・・・」
そんなわけで、第66回めだかの学校の校長先生という大役をおおせつかる事になりました。

前回第65回めだかの学校、お開き前のこと、村松達雄めだか&榊原幸雄めだかから、菅原敏一めだか地域情報誌「かがり火」の休刊の経過説明、そして復刊への道、支援と協力をお願いがありました。全国各地で頑張っている地域の人たち、そうした人たちの中でも、特に目立たない地味な活動を続けている仲間たち、また日の当たらないところでも日々黙々と取り組んでいる人たち、名もない人たちにスポットを当て、記事に書き続けること20余年・・・もともとまったく採算ベースに乗らないことを、承知しながら頑張ってきたものの、ついに休刊の止む無きに至ってしまいました。

某月某日、「かがり火」休刊を受け、東京某所で開催された「かがり火全国支局長

会議」なんと100名を超える支局長&読者が全国各地から集まりました。まさに菅原さんの人徳のなせる技。ご本人からは現在の収支・経営状況、抱えている負債の額、今後の見通しなどの説明があり、「かがり火」の取材&編集にかけてきた思いのたけを熱く語ってくれました。それを受け会場を埋めた仲間と活発な意見交換、復刊のための条件、新たな編集方針や体制づくり、採算を合わせるための発行部数など、問題点の検証や今後の目標などが提案されました。その意見の多くは「かがり火」の復刊を望むもので、現在の借金を何らかの形で返済、今後は採算に見合う経営をしてゆくとするもの、復刊へ向けた方向性は満場一致の拍手をもって承認され、すでに具体的に動き始めています。

この「かがり火」復刊についてはもちろん大賛成ですが、一つだけ気がかりなことそれは菅原さんの今後のかわり方。せっかく復刊しても、これまで通り菅原さんが今までと変わらぬ気持ちと熱意で取材や編集をできるかどうか？今回集まった人たちを見てみると、自分たちを含めてそのほとんどの人が、とにもかくにも菅原さんに会いに来た人たち。「かがり火」II「菅原敏一」、たとえ「かがり火」が復刊しても、菅原さんが現場や取材の一線から退いたり、編集の方向性が変わったたりすれば「かがり火」の名前は残っても中身は別物

になつてしまふような気がします。むしろ「かがり火」という雑誌の発行を無理して維持するよりも、目には見えないけど、菅原さんの思いと人間のつながりを大事にしてゆきたい。そんな風に感じてしまいました。厳しい世間の状況の中で、こんな話はロマンチックな理想論だとわかつてはいるのですが・・・地域の情報を本という形で伝えることは大切ですが、もっと大事なものは「菅原敏一」という人間のプリズムで見た地域の活動、そして人たち。一番大切なのはその「人」そのものなんですね。

閑話休題

さてさて、「めだかの学校」も17年目、いいだしっぺ「パラめだか」公民館活動も多忙を極め、なかなかじつじつと「めだかの学校」に取り組めない今日この頃。「たより」も毎回毎回遅れ気味、時間もないし体も無理がきかないし・・・誰か代わってやってよ、なんて声も聞こえてきますが、「めだかの学校」II「榊原幸雄」誰も代わりはできません。いつまでできるかわかりませんが、とにかくできなくなるまで一生事務局(笑)たとえ他の人が同じようにやれたとしても、それはよく似ていても「めだか」ではなく「かだやし」になってしまうことでしょうか。というわけで、パラめだかが頑張つてやってくれてる間、あと何十年か何十回かはわかりませんが、1回1回の「めだかの学校」を大切に、休まず出席しようではありませんか！人と時間を大事にしなごら・・・ね。



めだかの学校伝言板

——第66回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

- 校長／鈴木武史
- 教頭／加藤ひとみ
- 用務員／村田徳治
- 給食係／古田賢二郎・水野忠義・村田徳治・石野省三
伊藤英雄・鈴木祐之・山中幸子・今村純子
加藤ひとみ・渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場 TEL なし

開校日／平成 21 年 12 月 4 日 (金) 6:20PMより
受付／知久利克・本島真弓・村松孝司・斉藤昭(チーフ)

- <時間割>
～17期は『い・い・加・減』のおつきあいとは～
今回のテーマ「環境のエキスパート鈴木カルテット」
- 1時間目 理科 鈴木偉代先生
「自然の中でポンポコボン」
 - 2時間目 化学 鈴木祐之先生
「一粒のんでボンボン」
 - 3時間目 図工 鈴木格子先生
「鉄クズもらってモリモリアート」
 - 給食の時間～年越しご膳?～
- 10:15 閉校

泳ぎ回るめだかたち

■かがり火支局長会議に

行ってきました

ヒューマンネットワークマガジン「かがり火」の支局長会議が8月29日(土)東京・日本青年館で開催され、榊原幸雄メダカ、水野忠義メダカ、榊原淑友メダカ、鈴木正士メダカ、溝口久メダカ、鈴木武史メダカ、村松達雄メダカが参加しました。「存じのとおり「かがり火」は隠れた地域の人にスポットを当て、人と人、地域と地域を繋ぐ雑誌で、「めだかの学校」も何回か紹介され、主宰者である菅原メダカもめだかの学校の生徒です。

なぜこの会議が開催されたのかといえ「かがり火」が休刊になってしまったからです。休刊の知らせに全国から「勝手に止めるのは何事だ。」と声があがり、急遽思いを寄せる皆さんが結集したわけです。午後からの支局長会議では、約300人が集まり、休刊になった経緯や今後の方向について話し合われました。引き続き行われた交流会には30人以上の方が駆けつけました。

これは、「かがり火」が約20年前産声を上げてから、長い年月を掛けて、全国の人によるネットワークを気づき上げてきた賜物です。

ところで「かがり火」なぜ休刊になったかですが、菅原社長の説明では、「かがり火」は最初から離陸できなかったというのです。バブル絶頂期「リゾート通信」という名でスタートしたこの雑誌を続けていくうちに、大切なことは地域や人を繋ぐこと、地域に隠れた人を取り上げていきたいと雑誌名を「かがり火」に変えて全国の

ヒューマンネットワークづくりへ向かいます。公称3千部というものの実際には1千部程度の販売で、赤字はPR誌や機関誌などの受託の仕事の売り上げで穴埋めしていたということでした。気が付けば給料どころか2千万円以上の赤字が残ることになってしまいました。本当の意味での自立ができないまま休刊という事態になったのです。

そこでこの情報誌を維持するどうすればいいかと、会議では活発、白熱した意見が交わされました。それには約3千部の以上の購読者が必要という結論になり、今後復興プロジェクトを立ち上げることにしました。

追伸 「かがり火」の復刊するという連絡が入りました。12月に第130号が出ます。

「かがり火」購読希望者は、(株)リゾート通信社(TEL03-5276-1051 FAX03-5276-1050 メール editor@tanline.jp)へ「めだかの学校生徒 〇〇〇〇 かがり火購読希望」として御連絡ください。正式な申込書が送られてきます。また、バックナンバーを参考にご覧になりたい方もそちらへ御連絡ください。

■都田ダム湖水源まつり

「菜の花プロジェクト」

10月18日(日)、いなさ湖野外ステージに集合して、花壇の土づくりと菜の花の種まき。なんと集まったのは、石野省三メダカと牧野久子メダカと尾上美智子メダカご夫妻のみ。この3メダカと応援の尾上さんのご主人。意に介さず土を耕し、タネをまき、水をかけ、春に綺麗な咲く菜の花をイメージして。事務局のバラメダカ

も地区の敬老会に参加できず「めん。いつもの伊藤英雄、服部守孝メダカらも、そろってごめんなきい。

9月27日(日)に、同じく野外ステージの花壇の草刈りと、土起こし。石野省三メダカとバラメダカ、尾上美智子メダカご夫妻。清々しい秋空のもと、素晴らしい汗をかいて、おむすびを食べて、楽しいひと時でもありました。

■第27回地域づくり

団体全国研修交流会佐賀大会

全国研修交流会佐賀大会は平成22年2月5日(金)・6日(土)の2日間佐賀市文化会館を全体会場に、佐賀市、唐津市、伊万里市など13会場に分かれて分科会が行なわれる。

待ちきれない人には、2月4日(木)18時〜20時まで、さかもとと地場産の食事とお酒で大いに語ろう。特別オプションは2月5日(金)9時30分から12時45分まで「企業とSOSの協働」「行政とSOSの協働」、事例発表とパネルディスカッション。全体会は5日(金)13時から14時30分までオープニングアトラクションなど式典を行い、終了次第分科会場へ移動する。

全国から地域づくりに関る面白人が集まります。分科会で地域の人と大いに語り合うのもいいものです。申し込みは静岡県地域づくり団体協議会でまとめて行ないます。参加希望の方は、11月29日(土)までに事務局榊原までお問い合わせください。

■第8回全国まちづくり交流会

in 沖繩・北中城2010

愛知県豊田市足助町から始まった全国まちづくり交流会。第8回は2010年7月2日(金)〜4日(日)まで。沖繩県中城村で行ないます。中城村には、世界遺産の中城城跡と、国の重要文化財の中村家住宅があり、それにあつい肝心(ちむぐくる)がまつちよんど(お待ちしています)。

第7回の三重県伊勢市二見町で開催された時には、水野忠義、石野省三、村松達雄メダカら6名が参加。日帰りの強行軍でしたが、のぼり旗を振ったりして、大いに盛り上げてきました。第9回は岐阜県開田町で決まっています。区切りの第10回は静岡県森町が手を上げたり下げたりしている。先日、小国神社の宮司さんに話したら、「会場にどうぞお使いください」だって。

■みんなで楽しく

『警田市立豊岡東公民館まつり』

警田市敷地の、警田市立豊岡東公民館(館長 榊原幸雄メダカ)では、11月22日(日)午前9時30分から午後2時まで、「公民館まつり」を行います。この「公民館まつり」予算はゼロ。「みんな楽しく！」が合言葉。地域の人たちと一緒にメダカ生が大活躍しますぞ！手打ちそばは鈴木正士メダカを中心に、石野省三、鈴木佳子、鈴木真弓メダカら。カレーは渡辺三ツ子チーフ。コーヒ―は榊原幸雄メダカ夫婦、野外では深澤明男メダカが餅つき、伊藤英雄メダカが焼き芋、村田徳治メダカが応援。演芸では田村進治、榊原幸雄メダカが劇、加茂光廣メダカが草笛・・・etc。21日〜当日の応援部隊が欲しい。「我がこそが」・・・と思う人はご連絡を！0539-62-6669 豊岡東公民館 榊原メダカまで。

■スポーツをこえた重労働

「サトウキビ刈り取り体験」

なんでもあり農園では、今年も恒例の「サトウキビ刈り取り体験」を11月29日(日)に開催します。サトウキビ刈り取りは見たよりも収穫作業が大変、1本1本ノコギリで切り倒してからうらっぽ(葉先)を切り落とし、皮を剥いて束ねる作業。これをみながら楽しみながらやりましょう！作業開始は午前10時、作業のできる服装で、バーベキューや手打ちそばも出す予定です。数は足りないのにお弁当を持ってきていただいほうがいいです。場所はR150サンサンファームのすぐ南側、参加料は無料、おやつはサトウキビかじり放題、雨天の場合は個人個人で判断ください。当日の飛び込み参加もOKですが、事前に連絡をいただければありがたいです。連絡先 風紋館 TEL&FAX 0537・48・4375まで。

※今年から「よこすかしろ」の生産拠点が、サンサンファームから商工会へ移りました。工場はR150沿い道の南側、沖之須Bggのすぐ東側です。「よこすかしろ」の問い合わせ、お求めは大須賀町商工会へTEL 0537・48・2262(代)

『人・ひと・ヒト』だより

●浜松市の加茂光廣メダカ。浜松市フラワーパークで開催されている「浜松モザイクカルチャー世界博2009」の会場で、ふらりと3日に一度、勝手に草苗吹いているんだって。11月6日浜松市雄踏町で開催された静岡県公民館大会で基調講演「草苗のルーツを尋ねて三千里」しました。

●浜松市引佐町の伊藤八右メダカ。勤務の消防関係で夜勤が多く欠席つづきでこめん。最近はお米と野菜づくりに目覚めて、安全安心の食生活に取り組んでいる。将来は炭焼きも。もちろん能面づくりの腕も磨いていきます。

●千葉県習志野市の市原稔メダカ。山梨県立大学を定年退職。フリーの立場で各地の人を訪ねての交流を図りたい。旅歩き、各地の食を味わい、コレクションの箸袋の収集も。ですって。もしかして、あなたのことへ行くかも。

●岡崎市の太田民次メダカ。詩吟歴37年、ソフトボール公認審判員26年。仕事の穀物検定では、国内・外国のコメ、その他の穀物の検査・検定をやっている。と。どうです、お宅のお米の検定してもらったら？ 特級と認定してもらえませんか。

●浜松市の小野田宗弘メダカ。高校の先生。バイクで野宿、日本一周をやっている。学校の授業で色々な材料を使って紙すきを教えることも。家の裏にアトリエを作ってしまった。鈴木武史メダカのサトウキビを使ってザワワ紙もつくりましたヨ。

●所沢市の木村智子メダカ。植物を通して人をつなぐ・自然とつながる。小さなことでもやれば大きな力へつながっていく。たくさんの人が気づくといひですね、と。草花を通じて自然と対話しながら、ガーデニングなどの指導に活躍している。

●松阪市の坂梨律子メダカ。松坂もめんセンターに勤めながら、織りと染めを通して地域づくりをやっていたが退職して、本格的に織りと染めの世界へ。今年自分と藍と綿を植えました。夏に藍の葉を収穫して染(すくも)・藍染めのための染料)作りに挑戦中です。と。

●磐田市の島田尚子メダカ。外国人に日本語を教える活動をもっと充実させていきたいと。厳しい現実がつづく外国の人のためにがんばる。嬉しいですね。

●森町の田邊哲メダカ。自称森町朗神福祉協議会会長として、限界集落から引き取り手のないB級神様仏様の下取りシステム

を作りたいと。近くに住む人曰く「ちよっと変わった人だねえ」だって。まさに(笑)。「めだかの人はほとんど似たような人ばかりだと言っておきました」と我が妻明美さん。

●長野県飯田市南信濃の玉置洋一メダカ。なかなか出席できませんが、退学だけは赦してください。玉置メダカから頼まれて松本泰榮メダカが指導した南信濃の「おばあちゃんのおぼまんじゅう」、今も健在かな。なんせ年間2000万円の売り上げがあったとか。

●富士市の豊田由美メダカ。農でできるグリーンツーリズムの実現に向けてスタート。このままだと、生産農家ではなく「農デネイター」になりそうです。故佐野久・玲子メダカの血をしっかりと受け継いでいる。そうだよ、伊藤英雄メダカさん。

●浜松市の藤田吉恭メダカ。家具修理の技術を活かして、テーブルを縮める・整理ダンスを低くするなど、家具のリフォームは面白いと。みなさん、やっていただいたらいいますヨ。

●愛知県東栄町の森下幸子メダカ。最近木登りはサルに負けるようになったと。草花いじり・保存食・漬物作りは、熟練の域に。詩吟40年、草木染25年。独りで日本国中をドライブ旅行したいと。昭和15年生まれの女のひとは強い。我も亦15年生まれ。

●名古屋市の山根圭三メダカ。いや、こちら元気がいいのお兄さま。今年も体育館会場の芸術創造センター(劇場)で舞台出演。終わってホッとし、とび上がった瞬間に頭の中はきれいさっぱり真っ白に。さすが山根メダカ。『忘れることは大事です』と、ある脳博士が言っていました。

●藤枝市の横山浩史メダカ。藤枝市で桐タンスの横山浩史と言えは「あのアイディアマン」と言われるとか。今年からサッカー競技に復帰。9月15日5日間開かれた「日本スポーツマスターズ2009サッカー大会」に出場。40歳以上の公式だった。

●新入生の紹介です。(17期・65回めだかの学校から入校した人です。)

●名古屋市の牛田松雄メダカ。好きは野球・釣り・自己啓発の読書。得意はファイナンシャルプランニング。趣味はカラオケ。新城市の田中きみ子メダカ。新城市で主人とサークルKを経営。頑張って数店舗。カラオケと菊づくりが大好きだ。今、菊の花が見事でしょうね、みたいなア。

●磐田市の虫生勉メダカ。浜松市志都呂町のイーオンで手相を診ている。手相を診ていると、その人の性格が分かるんだって。3年で3万人の手相を診ました。「自分の手相は自分で変える」そのお手伝いをしていきます。と。

まだまだたくさんの人を紹介したいのですが、今回はこれまで。

『めだか春秋』
今年のおちっちゃな文化展
国民文化祭に併せて10月23日、25日に開催された「ちっちゃな文化展」は大変な人出でした。我が家は、生前大須賀町(現掛川)が大変お世話になったSBSパースナリティー井出孝さんの絵画展示会場になりました。10月24日夜、バラさんと鈴木正士さんもかけつけてくれました。毎年清水(現静岡市清水区)の井出さんのお宅に絵を借りに行き、終了するとお返しに行きます。まだまだ沢山の絵が井出さん宅にあるので、毎年違う絵の展示をしています。来年も是非我が家に井出さんの絵を親に来て下さい。我が家は、いなさ人形劇まつり・渋川しいたけ祭り・秋のいなさ等のパンプを置いて、引佐のPRをしています。

「渋川大好き」大使 鳥山剛メダカ(めだかの学校第一回生・掛川市横須賀在住)

トピックス

■ やったぜ めだかの学校から国會議員!!

浜松市の城内メダカ。平成21年8月30日(日)に行われた衆議院議員選挙で、静岡7区から立候補、見事、自民党、民主党、幸福党からの立候補者を破って当選。即日開票で早々と当確。まさにめだかの学校から国會議員が誕生した瞬間でもあった。城内メダカ「9月4日のめだかの学校に出席してみなさんにお礼を言いたい」と言っていたが、選挙の疲れから体調を崩して欠席。事務局から当選報告。拍手で祝福。城内メダカ、みなさんも存じのように自民党員であったが、郵政民営化に反対して自民党を脱党させられた。小泉政権の郵政民営化を争点にした衆議院議員選挙で、無所属で立候補したが、自民党から対抗馬を出されて少差で落選。落選後はこまめに地元を回り、街頭ではいつものようにマイクを握って「信念を変えず」と、自らの考えを吐露しつづけた。まさに苦節4年の歳月であった。今の圧倒的民主党政権の中にあつては、活躍の場は極めて少ないと思う。苦節をなめた四年間に培った経験を忘れずに頑張つて欲しい。機会があれば特別授業で、『国会の裏話』でもしていただければいいですね。

■ 事務局だより

11月も半ば、季節は晩秋へと歩みはじめています。事務局である私の家の周りは、次郎柿がすっかり色づいて、晩秋の風情を醸し出しています。

さて、17期最初の第65回めだかの学校は9月4日。校長西川裕子、教頭亀澤進、用務員田村進治。ユニークを絵に書いた3人。今回は17期最初の学校であるので、亀澤教頭の先導で『建学の精神(二)』を唱和する。「好奇心」と「遊び心」と「挑戦心」。もうひとりの自分をみつつけ、もう一人のあなた発掘くあらためて建学の精神に思いを馳せることができた。授業は特別授業「こんには、一年生」発表、ひとり3分のあなたの時間。一年生の加藤ひとみ、杉村美子、鈴木格子、田村進治、山中幸子、本島真弓、知久利克、村松孝司、田中きみ子、虫生勉の一年生と新人が3分づつ語る。ひとりひとりの発表の内訳を書くことはできないが、個性豊かな人たちが入校してくれたことに喜びを感じる。(皆さんのことは、人・ひと・ヒトだよりのコーナーで紹介しているので参照してください)。つづいての校長訓話、まさに音楽に強い西川校長。歌をうたって、身体を動かしての楽しい訓話、事務局からのお知らせは、相変らず欠席の返事をしない生徒がいること、継続手続きのこと、開校前に行った草刈りと清掃のことなどを話す。給食は給食当番の欠席者もあつて手不足であつたが早めに出席してくれた生徒が積極的に手伝ってくれたおかげで美味しいマツタケいっぱい給食を頂くことができました。

■ 私語飲食全て禁止の次回3役の発表。

第66回は12月4日、校長鈴木武史、教頭加藤ひとみ、用務員村田徳治。校長はベテランをあて、教頭は一年生、用務員は新人。鈴木武史校長のもと、3人3様の性格、楽しみですね、最後はみんなで輪をつくって再会を！それにしても夜の山道の運転は恐くなった。

第66回めだかの学校の職員会議を10月

14日磐田市の元氣村「味里」で開く。校長の鈴木武史、教頭の加藤ひとみ、用務員村田徳治の3役が揃いぶみ。19人が出席していつもの如く次回テーマ、授業、先生の検討をする。今回は環境をテーマに、人選を図る。偶然か必然か、間違いやすい、読みにくい人名の人を揃えたら、なんと鈴木さんがそろってしまった。そんなことからテーマは「鈴木カルテット」。一時間目、理科「自然の中でポンポコボン」鈴木偉代先生。二時間目、化学「一粒のんでポンポボン」鈴木祐之先生。三時間目、図工「鉄くずもらってモリモリアート」鈴木格子先生。3人の先生の名前読めますか？偉代(ひでよ)、祐之(ひろし)、格子(のりこ)。ポンポコボンは自然の表現。ポンポボンには老舗薬店の若旦那。モリモリは森町の表現(?)しています。いやはや困つた決め方ですね。でも断ると特別理由がない限り退学処分になります。入校する条件です。

■ 毎号、お詫びとお礼...

相変らず発効日を過ぎてても書けない。「今度こそは...」と心していたのに。言い訳は作ればいっぱいあるが...本当は集中力がなくなつて、記憶力が衰えて、目がシヨボシヨボして...困つたですね。10日も過ぎて...焦つて...書きはじめ。そしてFAXで伊藤英雄メダカ、鈴木武史メダカ、本島慎一郎メダカから『至急打つてメールで間瀬君に送つて!!』なのである。そして間瀬ちゃん頼む!!。ありがとー！感謝！。生徒の皆さんごめん。

■ 第17期の継続手続きがなされていない生徒は至急手続きを

17期は、21年9月1日から22年8月31日までです。随時申し込みは受け付けていますが、まだ継続できていない生徒は、今

回をもって自主退学となります。未継続の生徒のみ申込書を同封します。ご注意ください。入学希望者がありませんしたら事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■ お知らせとお願い

村松達雄メダカ、めだかの学校のブログを作っています。めだかの学校の活動や告知したいことなどありましたらご連絡ください。送付先は、〒437-0216森町天宮1079の3 村松達雄 TEL0538-85-4037 メールは、tazomori@gmail.com

■めだかの学校だよりの原稿を！
次回の発行日は平成22年2月1日、原稿の締切りは1月20日です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp》

間瀬亮太090-5009-0986です。(メールの方は割付の関係もあるので「報せ」)

■めだかの学校の事務局

〒438-0105静岡県磐田市家田52
9番地20 榊原幸雄方 TEL053
9-62-6691 (FAX同じ)
※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。

